

国内外の問題

国務大臣・総務庁長官就任記念講演より

ただ今、神馬同窓会会長さんからご紹介頂きましたが、旧制十五期、昭和十九年に能代高校の前身である能代中学を卒業しました佐々木満でございます。

学校の所在地も異なり、校舎も一新した中に学ぶ皆さんに、私が学んだ当時の思い出を語るのも場違いと思えますので、今日は皆さんがこれから生きていく将来について、少しお話ししてみたいと思います。

二一世紀も後わずか十年足らずの先に迫っております。これがどういう時代であるかはよくわかりません。プロ野球でもそうですが、予測



というものはなかなか当たりません。二〇世紀当初に予測したことで当たったものもあります。が、当たらなかつたものも少なくない。今世紀中に台風がなくなるとか、動物との会話が自由になるなどの予測は当たりませんでした。

このように予測は難しいものではありませんが、今後、科学技術をどう使うか人間が悩む時代になることだけははっきり予測できます。また、国際化が益々進むことも予測できます。

電気製品が普及したのは、つい最近のことです。昭和十九年、能代中学の校舎が全焼しましたが、それを知らずに登校してきた友人が少なくありませんでした。当時はラジオさえ持たない家庭がごく普通だったのです。その点現在の科学の進歩には、目を見張るものがあります。バイオテクノロジーの研究が進めば、好きな生物が作れます。人間さえ作れるでしょう。その反面、人間を大量に殺戮する核兵器の研究も進むかも知れません。つまり、科学は進歩さえすればそれでよいという時代ではなくなっているのです。

たとえば、二十年ほど前に日本で始めて心臓移植が行われました。これも放置すれば、やがてあさましい人間が他人の丈夫な心臓を望むようになります。脳死についてもさまざまな問題があります。医学の面では進歩と言えても、社会的にはそのまま素直に受け取りかねるものが

参議院議員 佐々木 満氏 旧制十五期

平成三年六月三日
於・能代高等学校体育館

あります。科学をどう使うのか、今結論は申しませんが、よく考えて頂きたいと思えます。国際化という点では、日本人が考えるほど世界は単純ではないことを、まず知ってもらいたい。人口の多い国もあれば少ない国もある。国土面積、経済力、生活水準、生活様式、みなまちまちです。このことをよく理解してかからなければ、本当の国際化は望めません。

世界を複雑にしているものに、民族・宗教・国境問題などがあります。世界にはたくさん民族があり、それが深刻な問題を生んでおります。日本人は宗教に比較的大胆ですが、宗教に厳しい国もあります。いろいろな宗教を信じる人が多くの国に分かれており、さまざまな問題を生みかつ複雑にしております。北方領土を除けば、国境問題にも日本人はあまり関心がありませんが、外国には人為的な国境さえあって、血で血を洗う紛争の源となっている所もあるのです。日本人であることに自信と誇りをもつと同時に、これらの諸問題をよく考え、他国の事情を理解してこそ、本当の国際人であると言えます。

最後になりますが、私は、学校時代の恩師と友人が私の宝であるといつも思っております。皆さんも感動のある高校生活を送って、あなたが二一世紀を生きていく上で、かけがえのない三年間にしてください。

平成三年能代高校東京同窓会総会開催

平成三年十月五日・午後五時
於・茗蹊会館

第一部 講演会
第二部 懇親会
第三部 懇親会

●開会の挨拶●

秋田県立能代高校東京同窓会会長

坂倉 創彦氏 旧制三期

えー、久しぶりでございます。能代高校の同窓会をご承知の通り、毎年一回ここでやるわけですけれども、今日も去年と同じように、能代から同窓会々長さんもお見えになり、校長先生にもおいで頂いております。また今年は、新卒の若々しい皆さんもたくさん参加されている。この同窓会もかなり回を重ねましたが、このような会は始めてではないかと思えます。秋田県の数ある同窓会の中でも、わが能代高校東京同窓会は、最も特色ある立派なものであると確信しております。

この同窓会は、一部・二部・三部と分かれておりまして、第一部は講演会、第二部が総会、第三部が懇親会となっております。講演会は毎年三十分ぐらいの短い時間ではありますが、先輩の方々にいろいろおもしろいお話をさせて頂いております。今年は卒業生の高橋正太郎さん、旧制九期ですから昭和何年になりますか……、十三年、あー、そうですか。能代中学を昭和十三年卒業、東京商大を出て外務省に入省、ワシントン・バンコック・ロンドン各大使館に勤務され、その後、クウェート・イラン・フィンランドの各大使を歴任の後退職されました。現在は財団法人ラチオプレスの理事長としてご活躍をされております。こういう長い外国での生活

は非常に貴重なご経験でございます。今日は、そのご経験を踏まえた『外から見た日本』という題でのお話を頂戴したいと思えます。それでは、最初に講演会から始めることにいたします。

高橋さん、よろしく願いいたします。

第一部 講演会

『外から見た日本』

元駐フィンランド大使

高橋 正太郎氏 旧制九期



ただ今、ご紹介に預かりました旧制九期の高橋でございます。中学時代は父が鷹巣農林の教頭だった関係で、鷹巣から能代まで汽車通学をやっております。神馬同窓会会長も五能線で

の通学で、汽車通学の連中はみんななかなか頑張っております。その後、東京商大、今の一橋大学を経て外務省に入り、先ほどご紹介がありました通り、あちこち行って参りました。外務省の生活は約四十四年間、四年ほど前にフィンランド大使を最後に退官いたしました。この四十四年のちょうど半分の約二十二年間を海外で生活したわけでございます。その中でいちばん長いのがアメリカで八年。ワシントンに二回、そして、ニューヨークでは総領事をやりました。ヨーロッパでは、ロンドンに四年近く滞在。最後はフィンランドの大使を三年ほどやっておりました。アジアでは、バンコックの大使館に若い頃二年おりました。中東は合計六年、クウェートに三年、間にニューヨークをばさんでイランで、ちょうどイラ・イラ戦争の最中で革命になったときでしたが、向こうでの生活を送りました。たまたま中東のご縁が深かったものですから、昨年会報に何か書かないかと言われまして「国ざかい」という駄文を草したわけですが、すでにイラクがクウェートに侵攻しておりましたが、まさかあのような大戦争になるとは思いませんでしたので、いちばんの問題はクウェートとイラクの間のプリアンとワルバという二つの島で、国ざかいの問題はなかなか難しいなどと、のんきな話を書いてしまいま